

腸管出血性大腸菌（^{オー}O26）感染者の発生について（第2報）

5月16日に発表した高岡厚生センター管内における腸管出血性大腸菌（O26）感染症患者（20歳代男性）の家族等接触者の健康状況調査（検便）を実施したところ、下記のとおり同型の菌が検出されましたのでお知らせします。

1. 感染者の状況

- ・感染者 高岡厚生センター管内 男性（20歳代）
- ・経緯 5月17日（金）第1報の患者の発生を受け、高岡厚生センターが接触者の健康調査（検便）を実施
5月19日（日）腸管出血性大腸菌 O26（VT1）検出
腸管出血性大腸菌感染症と診断
- ・症状 無症状

2. 感染者及び感染源調査

- ・感染者について、喫食状況・健康状況・行動調査を実施中
- ・感染者に対し、医療機関への受診を勧奨

3. 対応

- ・感染者自宅等の消毒を指示
- ・感染者及び感染者家族等に対し、衛生教育を実施

4. 予防対策の周知をお願いします

- ・調理の際、食事の際、トイレの後など手洗い消毒を徹底しましょう
動物とふれあった後にも、必ず石けんを使用して十分に手洗いをしましょう
- ・肉類や加熱する食品は十分に加熱しましょう
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう
※生食用の牛レバーは提供・販売されていません。
- ・生野菜は流水でよく洗いましょう
- ・調理器具を使い分けましょう
生肉が触れたまな板、包丁、食器等は、生野菜や加熱済み食品を汚染しないよう、十分洗浄消毒してから使いましょう
※焼肉やバーベキューを楽しまれる場合は、生肉専用の箸やトングを使用し、食べる時の箸と使い分けをしましょう

■下痢等の症状がある場合は、速やかに医療機関を受診し医師の診察を受けましょう

5. 参考	(2019年)	(2018年：同時期)
(1) O157	2名	0名
(2) O26	5名 (本事例を含む)	0名
(3) O111	0名	2名
(4) O118	0名	1名
(5) O128	0名	0名
(6) O182	1名	0名